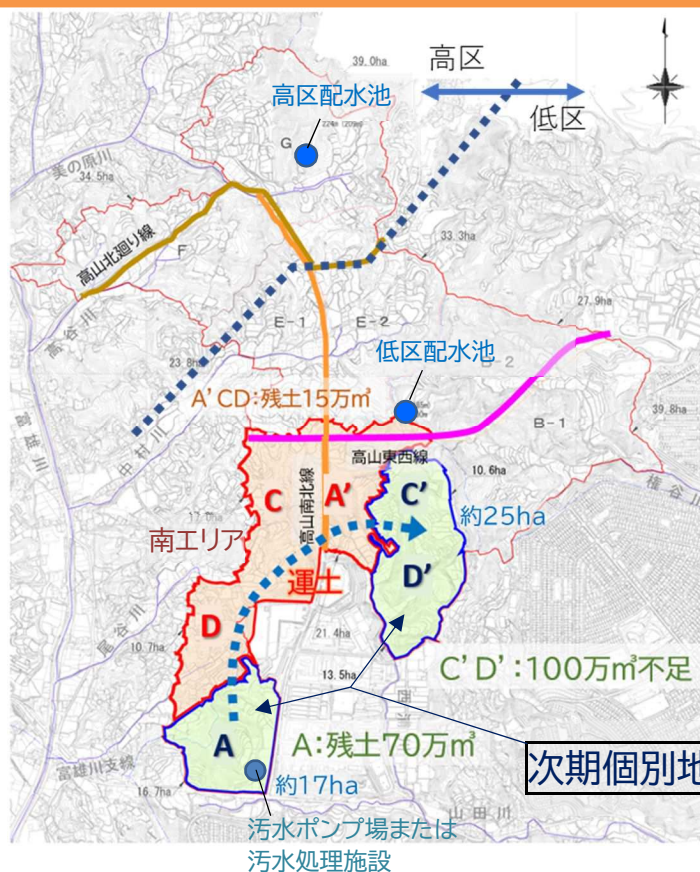


次期個別地区に AC' D' エリアを設定！

～南エリアと並行し事業化を推進～

学研高山地区第2工区マスタープラン（令和4年6月策定）を踏まえ、南エリアに続く個別地区事業を推進するため、学識経験者や奈良県、国といった関係行政機関等で構成する「第2回学研高山地区第2工区事業推進会議」において次期個別地区（以下、次エリア）への意見をいただき、第29回地権者の会役員会において意思決定されました。



<次エリア選定の条件>

- ・低区配水池から給水可能
- ・汚水処理施設の整備が必要

次エリアを設定するにあたり、低区配水池から給水可能なエリアのうち、汚水処理施設を整備する A エリアと土量バランスが可能なエリアとして事業アドバイザーの意見もふまえ、AC' D' のエリアを次に開発する地区として想定しました。

次期個別地区 AC' D'

事業アドバイザーの意見

<事業アドバイザー4者から次エリア選定に向けた意見>

- ・土量バランスが可能なエリア。
- ・規模は概ね約 30ha。
- ・低区配水池から給水が可能なエリア。



・A エリアの土を動かすことを考えると C' D' エリアと合わせて考えるのが合理的。

第2回 学研高山地区第2工区事業推進会議（R5.11.28）主な意見等

<次期個別地区の考え方についての主な意見>

- ・A地区とC'D'地区が離れているため組合の組成をどうするか。1つの地区と考えるのか、2つの地区に分けて考えるのかは課題。
- ・土地利用の考え方も違うこの離れたエリアで一体性のあるまちづくりをどのように誘導していくか。



- ・地権者の意向も聞きながら組合の組成の仕方を検討すべき。

<その他>

- ・高山東西線への接続を優先的に考えていくべき。

第29回 地権者の会役員会（R5.12.22） 主な意見・質問



- （質問）南エリアに次いで次期個別地区が選定され、2つの区域で別々に事業が進んでいくということだが、それぞれの区域におけるまちづくりは統一感のある方向性をもって進めていく予定なのか。
- （回答）地区ごとに別々の事業になるが、統一感のあるまちづくりになるように、第2工区全体での土地利用イメージを各地区で共有しながら事業を進めていく予定である。
- （質問）南エリアと次期個別地区は先端大を中心とした開発になり、第1工区の先端大や進出企業との連携は必要であると思うが、現在そうした連携等は行っているのか。
- （回答）先端大と生駒市は包括連携協定を結んでおり、その中で、周辺地区の方々や地権者、先端大の先生方や生徒、留学生等に意見（まちづくりを進めていくうえでどんな施設があればいいか等）を伺い、今後のまちづくりに反映させていけないかという事を考えている。

<結論>

AC'D' を次期個別地区として設定し、事業を進めることを意思決定する。

今後の取組み(予定)

全体地権者の会

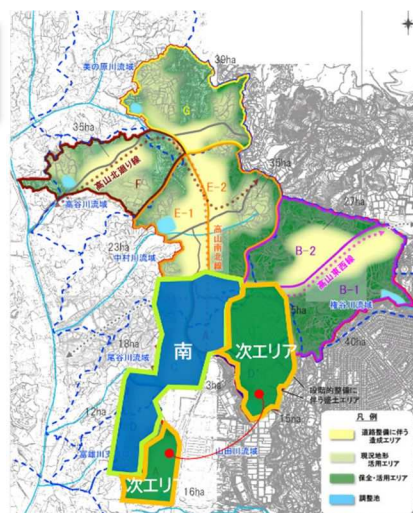
- ・地権者の意識醸成に向けた勉強会、総会の開催

南エリアまちづくり協議会

- ・基本計画の作成 ⇒ 準備組合の設立に向けた意向確認

次エリア対象地権者

- ・協議会設立に向けた意向確認 ⇒ 協議会設立総会開催



～お問い合わせ先～

生駒市 都市整備部 拠点形成課 学研推進室

電話：0743-74-1111（内線 3851、3860） FAX：0743-74-9100

e-mail：gakken@city.ikoma.lg.jp

